

平成29年度歴史まちづくり協議会 議事録

■ 出席者

- | | | |
|----------|-----------------------|-----------|
| ● 市長 | 山田拓郎（挨拶のみ） | |
| ● 会長 | 北海道大学名誉教授 | 越澤 明 |
| 副会長 | 日本イコモス国内委員会副委員長 | 苅谷 勇雅 |
| 委員 | 犬山市議会議員 | 柴田 浩行 |
| | 犬山市文化財保護審議会会長 | 長谷川 良夫 |
| | 公益財団法人犬山城白帝文庫理事長 | 成瀬 淳子 |
| | 株式会社名鉄犬山ホテル販売部企画担当部長 | 川瀬 憲郎（代理） |
| | 愛知県一宮建設事務所総務課課長補佐 | 尾関 健次（代理） |
| | 愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主事 | 吉田 賢嗣（代理） |
| | 愛知県建設部公園緑地課技師 | 熊谷 健太（代理） |
| | 犬山市都市整備部長 | 光清 毅 |
| | 犬山市教育部長 | 吉野 正根 |
| | 犬山市経済環境部長 | 永井 恵三 |
| ● オブザーバー | 中部地方整備局建政部計画管理課課長補佐 | 若杉 謙二（代理） |
| ● 事務局 | 教育部 歴史まちづくり課課長 | 中村 達司 |
| | 統括主査 | 後藤 泰介 |
| | 主査補 | 加藤 由加 |

■ 次第

- 1 あいさつ（山田市長・越澤会長・苅谷副会長）
- 2 報告事項
 - ① 犬山市の歴史まちづくりに関する事業等について
- 3 議題
 - ① 犬山市歴史的風致維持向上計画の変更（案）について
 - ② 進行管理・評価シート（案）について
- 4 その他

■ 報告事項（事務局説明）

資料1①～④に沿って説明を行った。

【意見・質疑】

越澤会長：資料1③は取扱注意との記載だが、これは持って帰っていいが、公表はしないでほしいということでのいいのか、この会議が終わったら回収するのかわどちらか。

事務局：持って帰っていただいて問題ないが、他に公開しないようにということである。住職は今回の火災でショックを受けており、正面の門は閉じられ一般人は入れないようにかつ、見られないようにしている。ただし、登録有形文化財建造物としての手続きに関係する書類には本日の資料を添付して報告している。

荻谷委員：報告の中でのぼり旗やその他のルールづくりというような話があったが、もう少し詳しく説明してほしい。

事務局：今日の城下町では特に構築物が乱立している状況である。歴史まちづくり課は規制の権限をもつ部署ではないため、どのようなものが犬山の城下町の風情に合うかという観点から調査を実施した。本町通りと城前広場を中心に現状の構築物の実態把握と、他市の城下町での先進事例の取組みを把握することが目的であった。この結果を、後日委員にはわかりやすく資料を作成して配布したいと考えている。ただしこれをもとにすぐにどうかということではなく、この結果を今後の議論の材料に有効に活用してければと考えている。

荻谷委員：理解した。

議題1：犬山市歴史的風致維持向上計画の変更（案）について

事務局より、資料2に沿って説明を行った。

《質疑応答》

越澤会長：新旧対照表の字が小さいので、次回からA3にしてほしい。

事務局：承知した。

議題2：進行管理・評価シート（案）について

事務局より、進行管理・評価シート（案）について説明を行った。

《質疑応答》

越澤会長：本日の会議で、指摘や補足があればそれを踏まえた形にしてから国に提出することになる。いつまでに意見を出せばよいか。

事務局：3月中旬までにはお願いしたい。

越澤会長：報道関係は、成瀬氏や白帝文庫などが登場しているものも含めてよいのではないかと。そうするともう少し件数が増えることになる。

荻谷委員：写真の解像度が低くてよくないため、もう少し解像度を上げたものを掲載した方がいいのではないかと。

歴まち計画に関係して建造物の定義がいろいろあるが、国登録有形文化財や歴史的風致形成建造物、景観重要建造物など、これらがどのような流れで指定されているのかがよくわからない。国登録の場合は当然国の審議会を通して決定されるのだが、これと歴史的風致形成建造物や景観重要建造物の関係性は重複しているのか、あるいはわざと別の建造物を選んでいるのか。どちらにするかによって最終的な効果が違ってくる。例えば資料1②の歴史まちづくり賞の説明資料の中で、過去10年間での修理履歴とあって、これもあるものとなないものがあるが、これはどう選んでいるのか。この中で、文化財保存事業費補助金交付というのは教育委員会の予算なのか。町並み環境整備事業は含まれていないのか。

事務局：町並み環境整備事業も含んでいる。

荻谷委員：そのあたりの状況を説明すればわかりやすいと思う。

成瀬委員：今回、犬山城の鯨瓦の一件や、常満寺の火災もあったことから、防火・防災管理という観点から、犬山城の東側の樹木を大体的に伐採した。それに対して一部の人からは見え過ぎだと、なぜこんなに切ったのかと言われる。逆に木を切らないと見えないという苦情がくる。犬山城の城山は、東西南北を一年ごとに区切って伐採しているため、次回伐採する時期が4年後になる。4年分切っているということが理解されていないと切りすぎだということになる。

柴田委員：今年度、景観重要建造物助成事業で5件の指定が進んで、1件助成されたという点は評価できる。この助成の内容でどのような修繕がなされたのか、詳細について説明をお願いしたい。

光清委員：都市整備部から説明する。今回は魚屋町の車山蔵の外壁の修景をした。工事経費が約370万円である。評価シートに修景前後の写真をつければよかったが、かなり古くなっていたため、色などは変わっていないが、塗り直しで下半分をややこげ茶にしている。補助率が3分の2で248万7千円の補助をした。

川瀬委員：最近は、火災に一番気をつけなければいけないということで、1月に如庵で防災訓練を実施した。他人事ではなく、一度失われると二度と戻ってこない。火災の当日は自分も夜勤でホテルにいて、消防車が通っていく音が聞こえたし、6階の客室からも炎が見えたと聞いている。他に燃え広がらなかったのが幸いであった。城下町は建物が密集しているため、今後も防災に気をつけていただきたい。

尾関委員：建造物の保存というのは大変であるが、これからも様々な取り組みをしながら進めていただきたい。

熊谷委員：現在、景観行政を担当していて、犬山市にも色々取り組んでもらっている。今年度景観重要建造物助成事業で5件の指定と1件の修景事業がされたということであるので、引き続き進めていただきたい。

吉田委員：文化庁からも、文化財の活用の方へのシフトが取沙汰されている。犬山市はメディアで取り上げられることも多く、活用も色々とされているので、こういう波を県内に広めていきたいと思っているため、犬山市を是非参考にしていきたい。

オブザーバー：資料1④で第2期計画の説明について、この会議に参加するにあたり、高山市に話を聞いたが、1年で作り上げなければならないことから、かなり厳しいものであるとのことであった。国との協議の中で指摘された内容は位置づけられている建造物や人々の活動について、50年という歴史の根拠を裏付ける資料があるのかどうかというのが

求められ、根拠が無い場合に、どのようにして根拠付けていくかということに苦労したとのことであった。個々の歴史的風致のエリアについても根拠を求められている。第1期計画はすでに10年前での形態であり、近年認定を受けた計画の書きぶりに合わせることを求められ、高山市は第1期の最初に策定であったため、その分かなり作り込む必要があったということである。現計画によっては作業量が非常に多くなる可能性もあり細かいところに気を配る必要がある。

越澤会長：犬山市も最初の年度に認定されようとして進めていたが、結構作業が進まずにできなかった。よって今回は作業が遅れないように進めていただきたい。まずは、人員体制をしっかりと整えていただきたい。

また、今回常満寺の火災で多くの文書や文化財が消失したと聞いている。犬山市にとっては地域の歴史でもあり、特に住職が日常的にいないような寺社は、古文書等を一時的に預かってデータ化したほうがよいのではと思う。データ化は読める程度でかまわないため、職員が自前のデジカメで撮影する程度で十分である。一度消失すると永久に復元が不可能になるためそうなる前に対応を検討する必要がある。また、元々城下町は住民意識が安全な場所であるため監視カメラは嫌がるかもしれないが、数カ所でも設置しておく抑止力にもなるため検討されたい。

先週、近畿地方整備局の依頼を受け、住民まちづくりの関係で丹波篠山に行った。10年前はまだ動きがなかったが、兵庫県庁の職員から篠山市の助役をされた方が退職し、地域のまちづくりを進め、ここ5年くらいで動き出した。その中で、レトロで特に文化財指定されていない建物を整備して、ある程度高い値段でホテルにした事例を見た。そのような動きが急速に広まっていて、美濃市でも歴まちで買い取った大豪商の家をそのような方針で行くということが決まったようだ。犬山市でもそのような活用の仕方を研究するとよいのではと思う。建物の活用にもなるし、夜間においても犬山は飲食するところもあるため、有効活用できる可能性がある。人が夜間もいるということが安全性を高めることになる。

成瀬委員：現在、迎帆楼がそのようなコンセプトで経営しているが、篠山の建造物よりはいいかなと思う。今の話において、火事などの抑止力としての人がいなのが問題だという話になると、そのためにリノベーションしてやっていくというのはいいアイデアだと思うが、数年前の火事の跡地を見て、景観のことを考えているようであまり景観的によくない建物が建っているというのが現状である。しっかりと基準を決めて整備していかないといけない。のぼりだけではなく、建物もバラバラで、せっかく今まで地元が守ってきた景観が守られなくなってきている現状を、この協議会にこれだけのメンバーが揃っているのだから、色々と意見を出してもらって、基本方針を決めるというのが大切である。

越澤会長：注目すべきことはすべての部屋にスプリンクラーが付いていて、水道管が見えるように天井に這わせている。

成瀬委員：私が宿泊したとき、3家族くらいが泊まる広い部屋に一人だけで宿泊して、鍵もすっかりかかっていない感じであった。しかも食事に行くのに暗い通りを歩いていかなければならなかった。防犯の部分で課題があるのではないかと感じた。民泊というのは非常にいいアイデアだと思うが、静かな田舎町では防犯や騒音の面でうまくいかないこともあると思われる。

越澤会長：いろいろ課題はあると思うが、今回の歴まち計画と同時並行で、犬山のまちをどうしていくかを考えてほしい。

苅谷委員：歴史的建造物は、見えないところで変な修景がされることがある。保存と活用のバランスを上手にとらないと建物の価値が損なわれてしまう。常に行政が関わっていかないと大変なことになる。その点を間違えると活用ではなく消費してしまう。新しいルールややり方をしっかり考えていく必要があると思う。

越澤会長：体育館跡地に今広場が整備されつつあるが、名称は考えているのか。あの場所は西御殿があった場所であることから名称は「西御殿広場」など御殿があった場所だとわかるようにした方がよいのではと思う。御殿を復元しようかという話も将来的には出てくるかもしれないが、まずは常に意識するためにも、名称は考えたほうがよい。

成瀬委員：犬山の事業は上辺だけで深みがない。西御殿の名前を使うのであればもう少し頑張って整備してほしい。

最近インスタ映えというのが流行だが、古いものを守ってきたからこそインスタ映えするわけで、現代の流行と古い伝統の融合を考える環境を国も地方も考えないといけない。それができていないから、文化財の所有者も流されてしまう。少なくとも犬山市では、しっかりとした基準を作って欲しい。

越澤会長：10年後には頑張ってくれると思う。今の発言を受けて経済環境部はいかがか。

永井委員：直ぐに対応ということではないが、今の城下町の抱える課題を考えた時に、もちろん文化財を守り活用していくということは重要であり理事長の努力もあり、登閣者数は伸びている。犬山城だけでなく、城下町全体の活性化を考える中で、以前はまち交を使って美装化や電線地中化を10年前にやった成果が10年後の今見え始めてきていると思う。今ある資源を活用しながら取組を継続させていく。何をやるかは別としてそういう考え方でやっていかないと、仮に今西御殿を整備したとしても、10年後にそれを見る人がいないとやる意味がない。経済分野と教育分野とでしっかりと融合しながらまちづくりを進めていくことが必要ではないかと考える。

入鹿池という溜池がある。日本では貯水量が最大級であり、平成27年度に世界かんがい施設遺産になった。これも古い歴史ではないものの、城下町とは違うエリアにそういう遺産があるということのアウトプットもしてかなければならないと思う。ダムカードを作ったり、ダムカレーを考案するなどの取組をしながら進めている。

苅谷委員：成瀬委員の発言は非常に重要で、機能的にはこういうものが必要というのはわかるのだが、できあがり歴史的風致から見るとあまりよくない現状にある。かなりしっかり考えていかないと、建物はできたが歴史的風致の維持向上にそぐわないということではいけない。設計やデザインの段階でこのような協議会や景観審議会のような会議で十分に検討されるべきである。そうでないとせつかくの歴史的風致の場所での投資が無駄になってしまう。

成瀬委員：予算ありきで物事が動いている感じがする。10年先、20年先を見越して決めていかないといけない。犬山城の扉を作るときも、作った当時から100年持つと言われた。扉の製作に850万円かかったが、100年で割ると1年で8万5千円なら安いという感覚になる。使い方を間違わなければ税金を無駄遣いしているのではなく、節税につながるというものにしてほしい。犬山城のトイレを作った際も、当時1,000万円かかったが、今、観光客からきれいな洋式のトイレだと評判がいいことから判断すれば、1,000万円かけた

だけのかいがあるということになる。市税の無駄遣いだと考えないようにすることは難しいが、支出する価値があるという観点で審議していただきたい。

越澤会長：きれいなトイレというのは非常に重要で、浅草寺にはよく行くが、5年くらい前に自主財源で全部整備して、それが観光分野で評価されている。利用者が必ずしも全員浅草寺にお参りに来る人ばかりではないが、トイレがきれいだというのは、日本はそういう国だということでアピールできる。歴まちとは関係なくても観光振興になる。

吉野委員：横の連携をもっととって、歴史的建造物を調査・保存しながら活用していくことが必要ではないかと思っている。庁内連絡調整会議も実施しているが、会議はするがなかなか成果を出せていないのが実情である。今回、火災が発生したことから今後どうしていくか、住宅密集地においてどのような予防策を考えていくのかが、市として大きな課題ではないかと思っている。

今年度から、歴史まちづくり賞を開始したが受賞者にも喜んでいただいた。また、所有者にはしっかりと守っていかねばならないという意識付けに繋がったと思われる。横の連携をとりながら伝統的建造物の保存を推進していかねばならないことを再認識して、引き続きご指導をお願いしたい。

光清委員：ただ整備すればいいというものではないというご意見はもったもである。整備については庁内会議を経て、予算も当然議会の審議を経て実施しており、市としてもベストなものを作っていくという思いはあるが、結果として中途半端なものになったという評価が出ているものもある。本日の意見を尊重しながら、今後進めていきたいと思っている。

越澤会長：今後、標識や案内看板が非常に重要であるため、ぜひ検討して欲しい。また、木曾川沿いの犬山城というのはインスタ映えすると思うため、もっとツイッターなどでもPRしたほうがよいのではと思う。行政はあまりそういうことが得意でないと思うが、やらないよりはやったほうが良いと思う。

苅谷委員：今回、景観重要建造物に指定された物件は犬山祭の車山蔵であるが、これらは国の登録文化財等に値する物件ではないのか。もし国の登録有形に値するのであれば、その方面からも助成が出るため、一層犬山祭が引き立つのではないか。

長谷川委員：文化庁は地震に関することを頻繁に言っているが、火災で焼けてしまっただけでは取り返しがつかないことも意識すべきである。防災設備を重点的に設置するようにしないといけない。常満寺も住職が住んでいなかったことから、人が住んでいればここまで焼け広がらなかったのではと思う。火災が大きくなってしまったら、消防団でも消火できない。

越澤会長：3月15日号の広報に歴史まちづくり賞のことが掲載されるとのことであるため、各委員に配布をお願いしたい。

次回協議会の開催は1年後くらいか。

事務局：状況に応じて連絡する。

越澤会長：各都市の歴まちの取組みを見ることも重要である。日帰りで行ける範囲で職員が視察にいけるように配慮していただきたい。いい取組みを是非見てほしい。